2006年3月期

決算説明会

2006年5月10日
株式会社ユタカ技研

ご説明内容

Ⅰ．2006年3月期　決算概況

Ⅱ．2007年3月期　見通し

Ⅲ．事業展開の基本方針

2006年3月期

決算概況

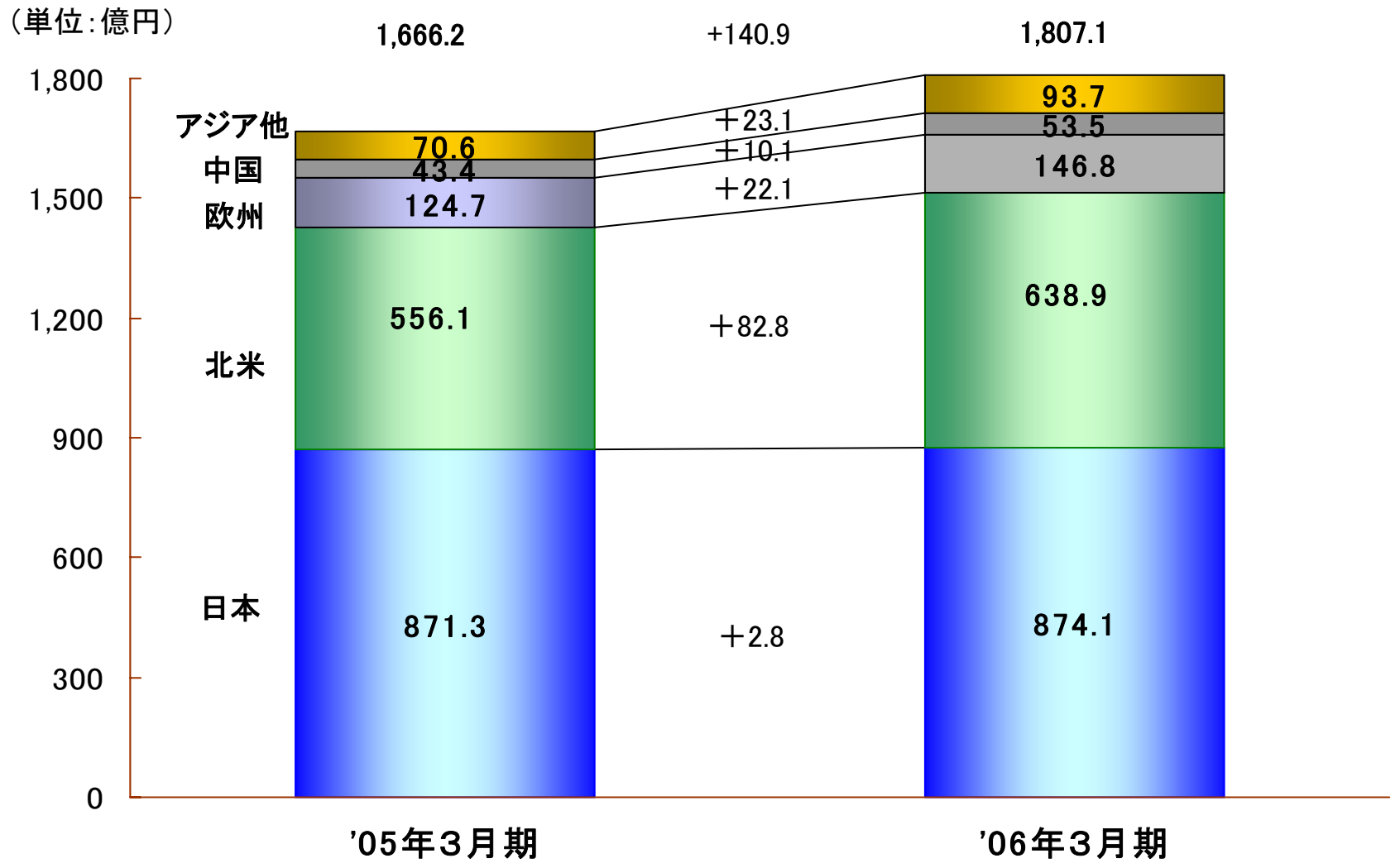
06年3月期決算概況　〈連結〉

（単位：億円）

	’05年3月期	’06年3月期	前年同期比
売上高	1,666.2	1,807.1	8.5%
営業利益	74.8	74.0	△1.1%
経常利益	81.0	81.1	0.1%
当期純利益	47.4	57.3 ＊年金代行返上益9.8及び毛呂山の土地・建物減損 △2.9含む	20.8%
1株当当期純利益	318.33円	384.63円	20.8%

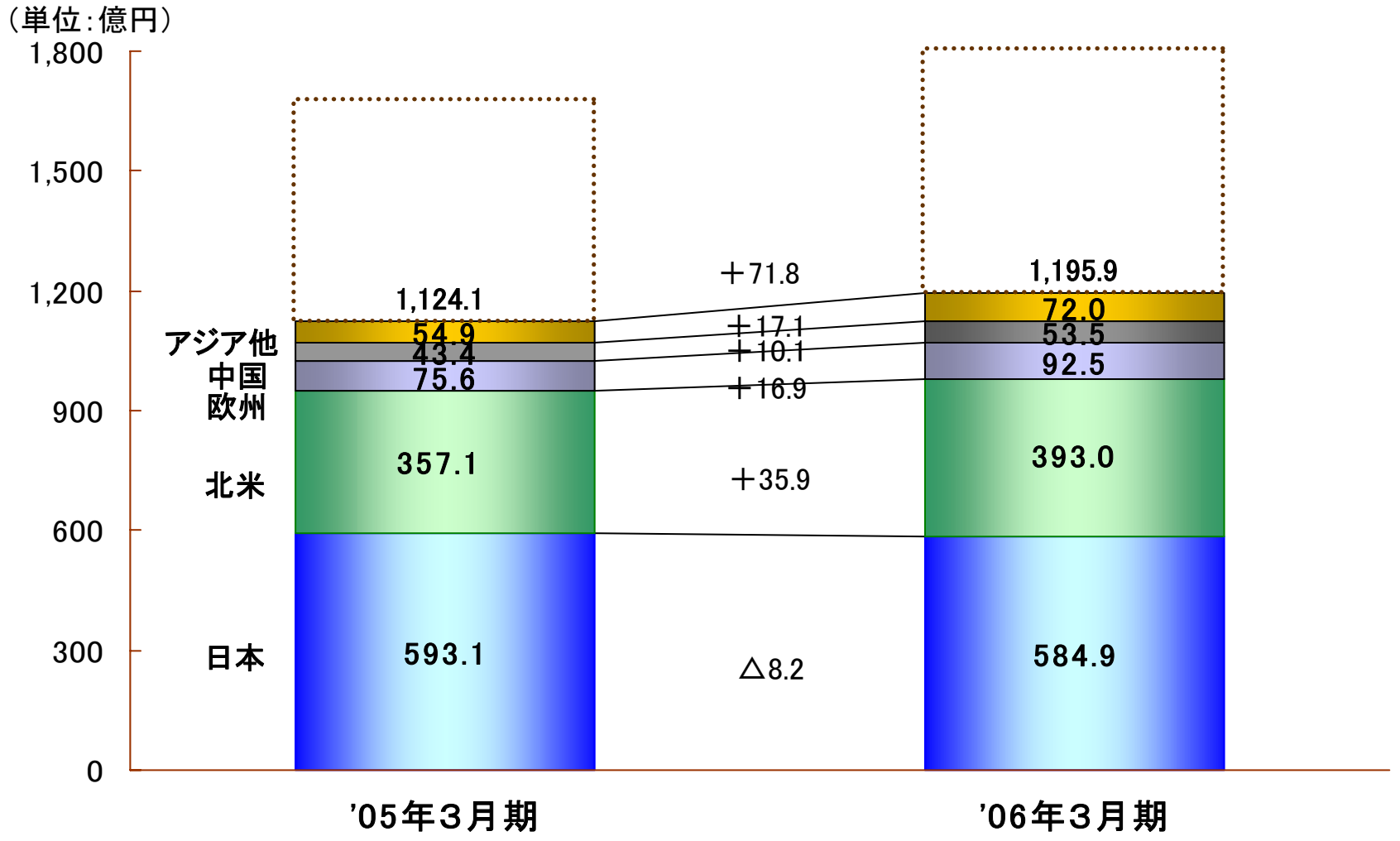
売上・当期純利益は過去最高、営業・経常利益はほぼ前期並み

06年3月期決算概況　〈連結〉 地域別売上高



全地域で増収

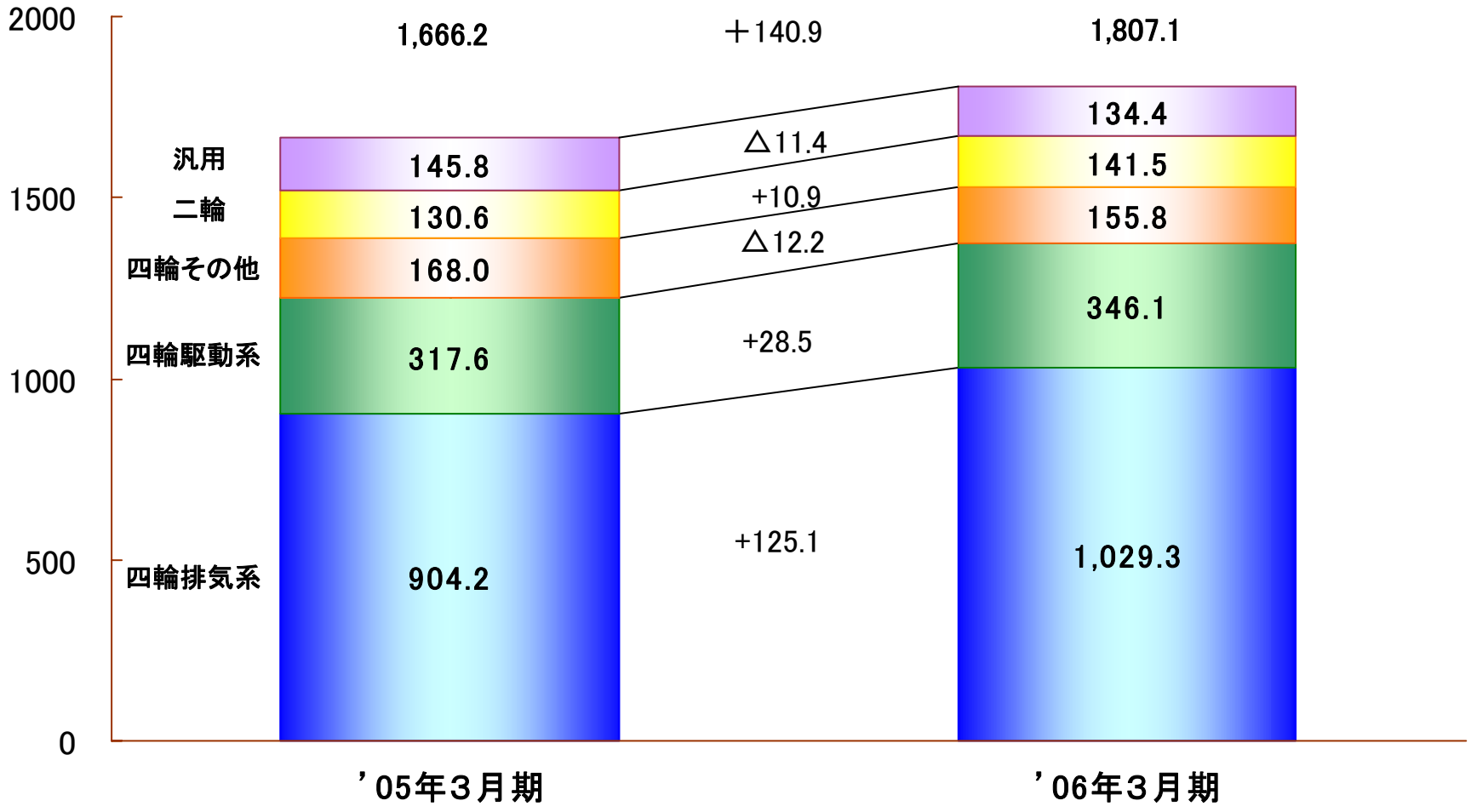
06年3月期決算概況　〈連結〉 地域別売上高（キャタリスト抜き）



キャタリスト抜きでも全体で増収

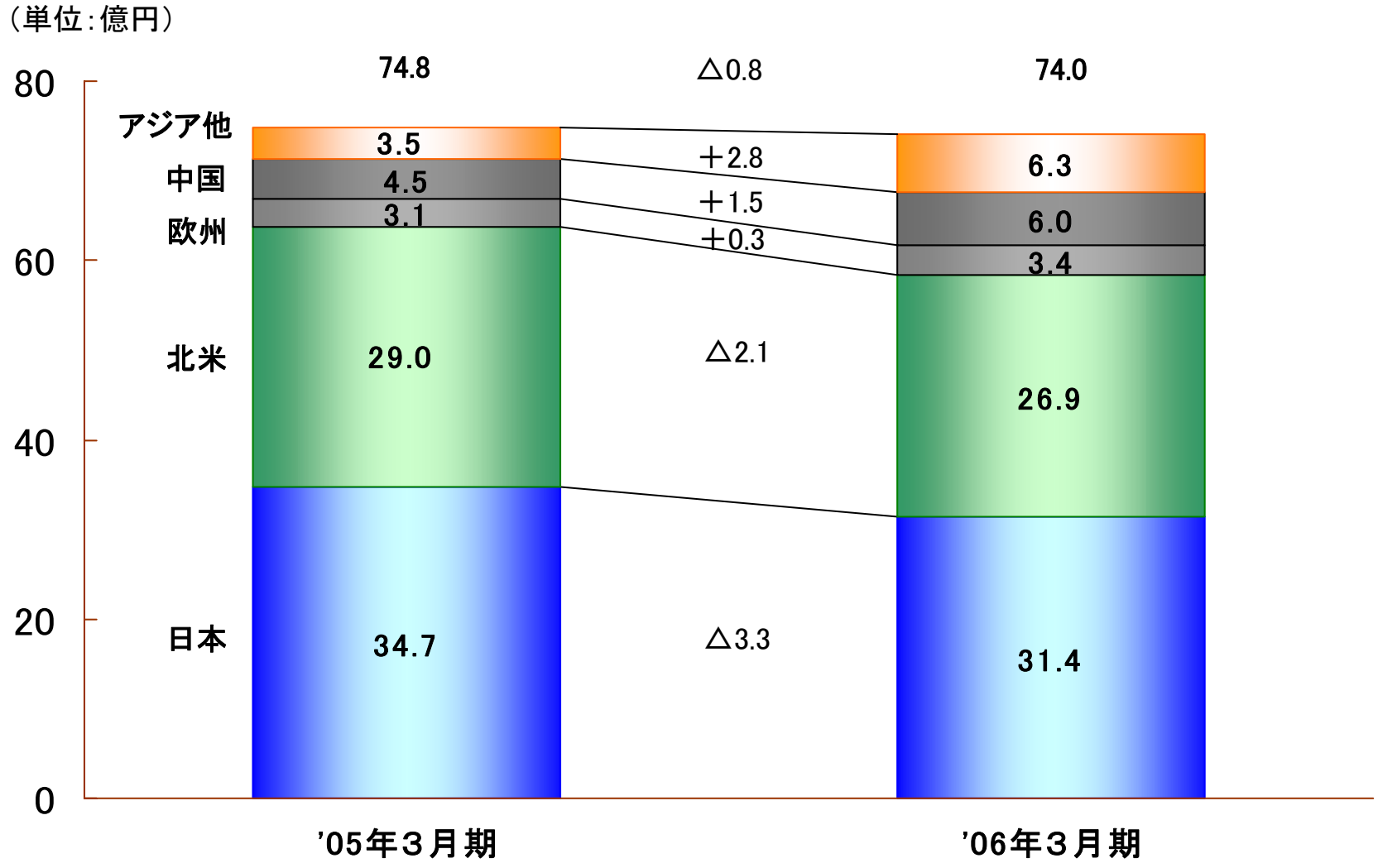
06年3月期決算概況 〈連結〉 製品別売上高

（単位：億円）



四輪排気系・駆動系の増収が大きく寄与

06年3月期決算概況　〈連結〉 地域別営業利益



中国・アジアの増益により、全体でほぼ前期並み

06年3月期決算概況　〈単独〉

（単位：億円）

	’05年3月期	’06年3月期	前年同期比
売上高	1,000.0	1,007.0	0.7%
営業利益	32.1	29.5	△8.1%
経常利益	40.4	40.2	△0.5%
当期純利益	25.8	31.3 ＊年金代行返上益9.8 及び毛呂山の土地・ 建物減損 △2.9含む	21.3%
1株当り当期純利益	172.38円	209.15円	21.3%

売上並びに経常利益はほぼ前期並み

2007年3月期

見通し

07年3月期見通し　〈連結〉

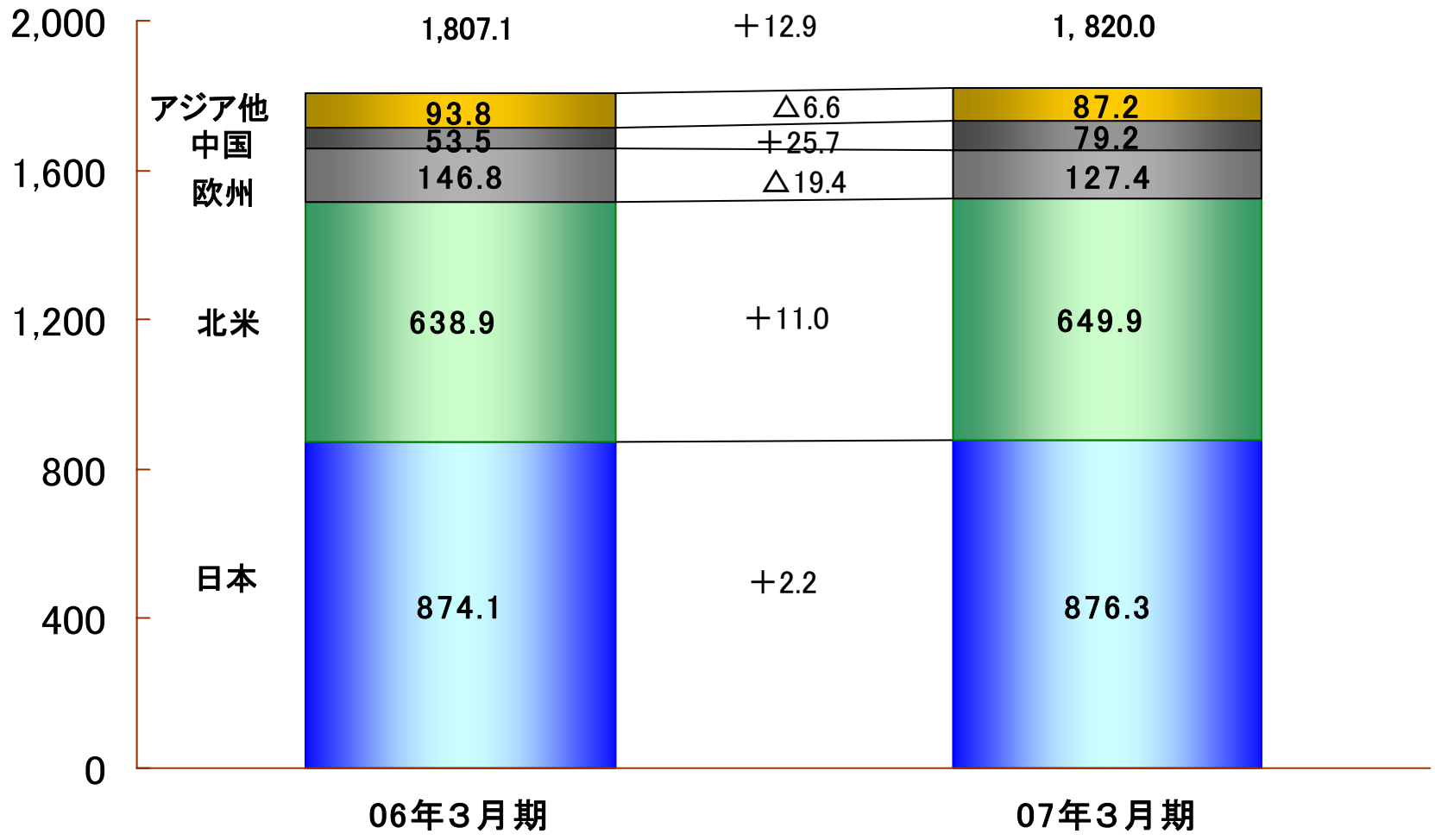
（単位：億円）

	‘06年３月期	‘07年３月期	前　期　比
売　　上　　高	1,807.1	1,820.0	0.7%
営　業　利　益	74.0	82.0	10.8%
経　常　利　益	81.1	85.0	4.8%
当　期　純　利　益	57.3 ＊年金代行返上益9.8及び毛呂山の土地・建物減損 △2.9含む	50.0 ＊鈴鹿の土地・建物減損 △1.1含む	△12.8%
１　株　当　り 当　期　純　利　益	384.63	335.23	△12.8%
１株当り配当金	26.0	30.0	+4円

売上高、営業利益及び経常利益で増収増益の見通し

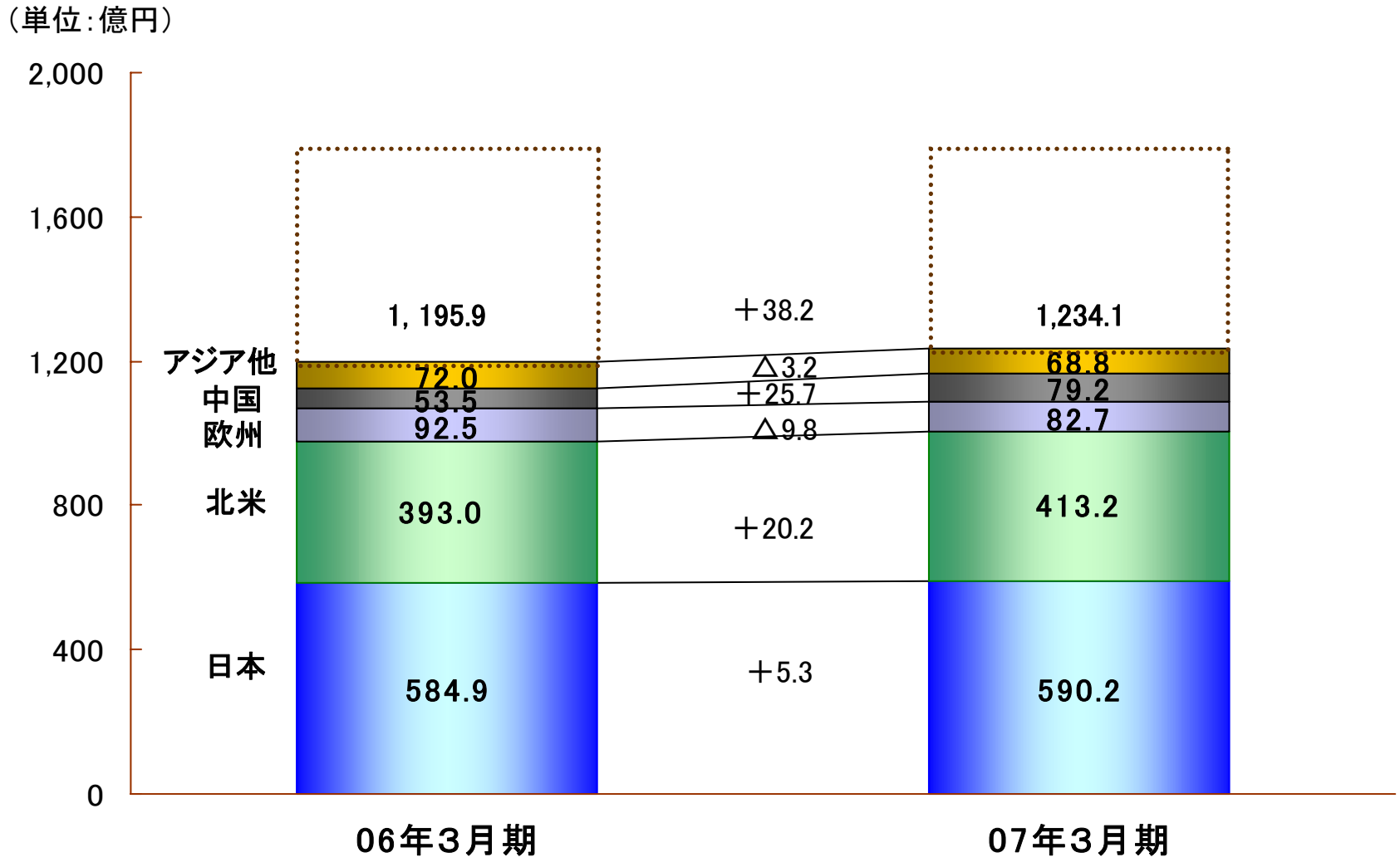
07年3月期見通し　〈連結〉 地域別売上高

（単位：億円）



一部地域の減収をカバーし、全体で増収

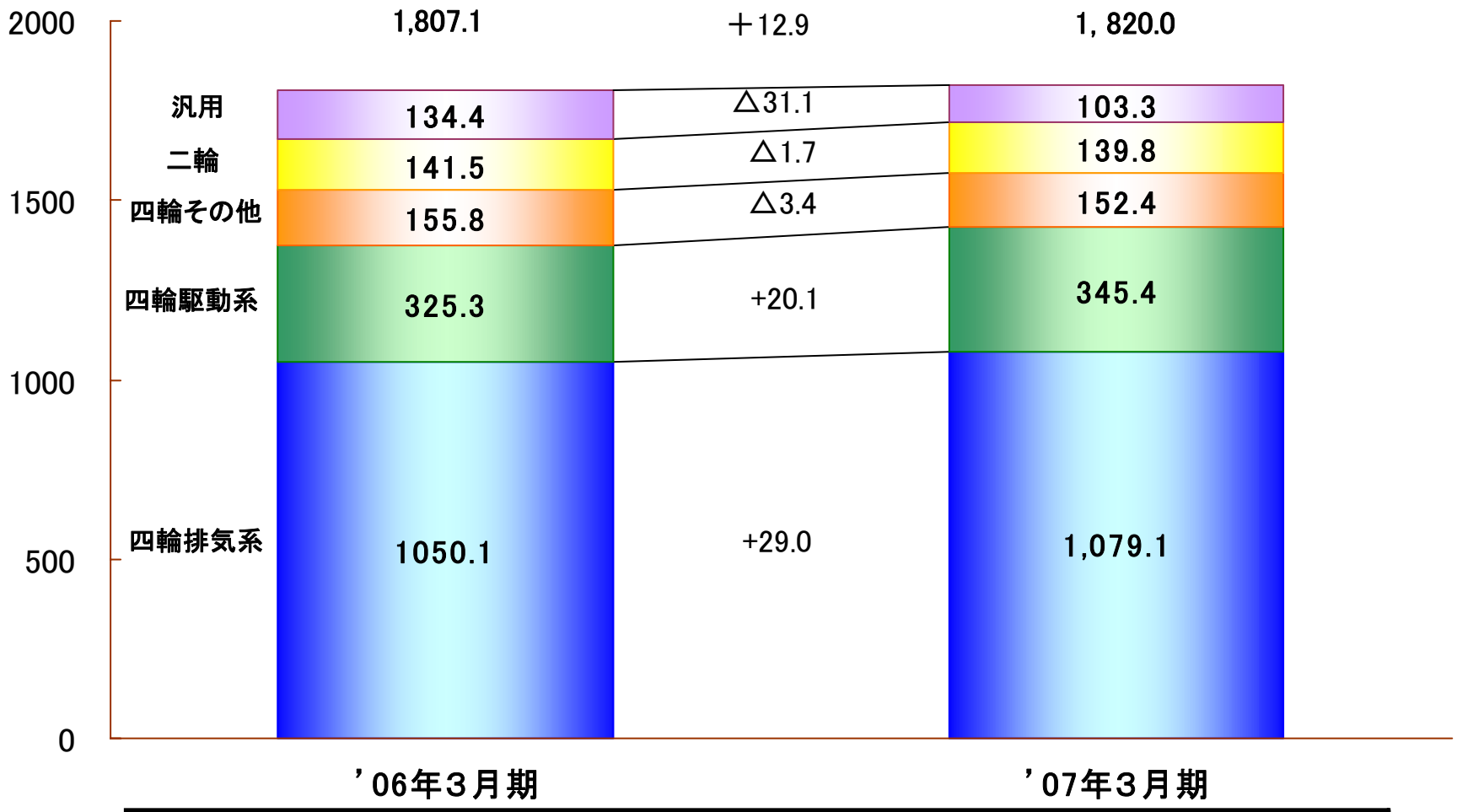
07年3月期見通し　〈連結〉 地域別売上高（キャタリスト抜き）



キャタリスト抜きでも全体で増収

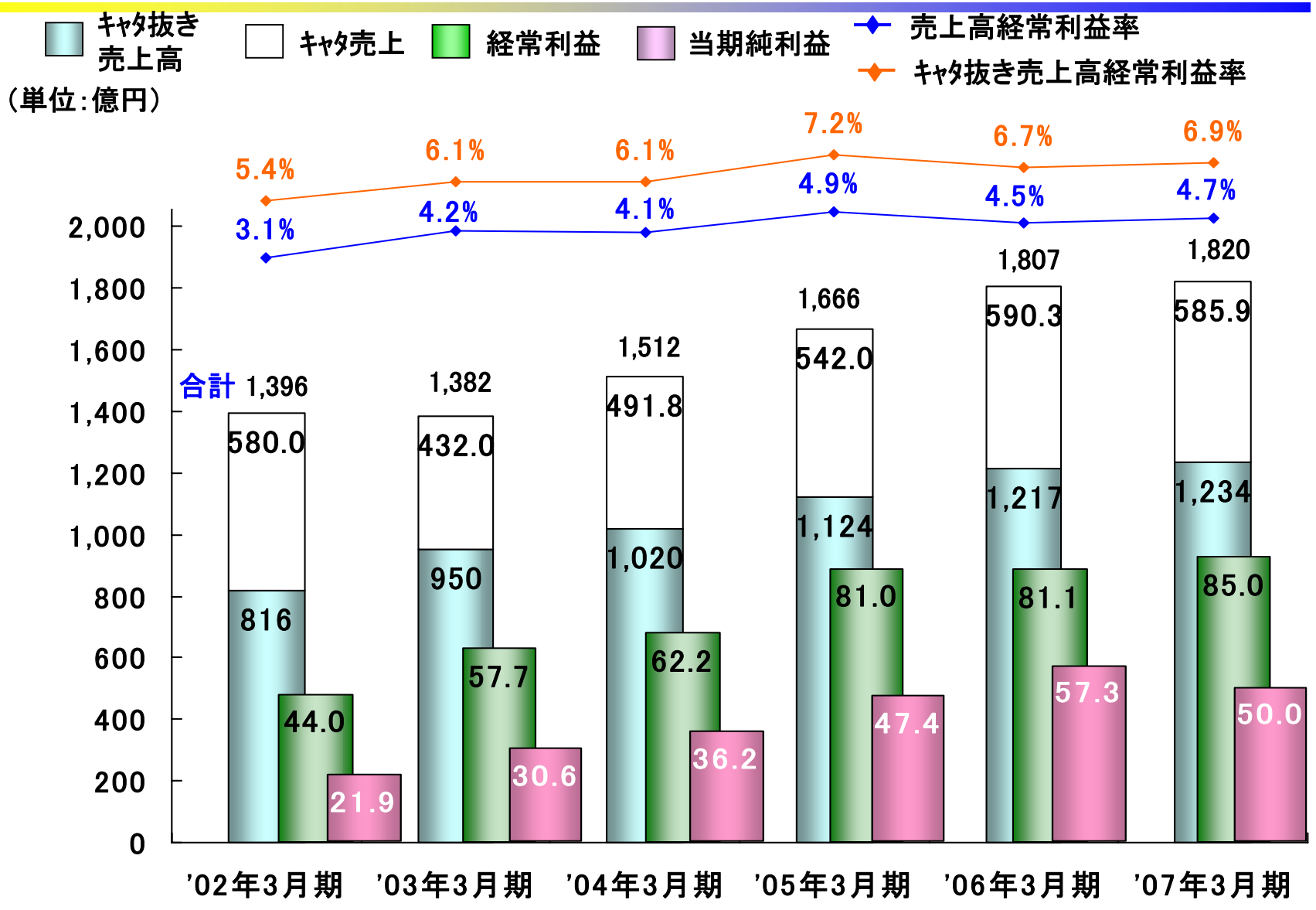
07年3月期見通し　〈連結〉 製品別売上高

（単位：億円）



二輪・汎用は減収し、四輪排気系・駆動系で増収

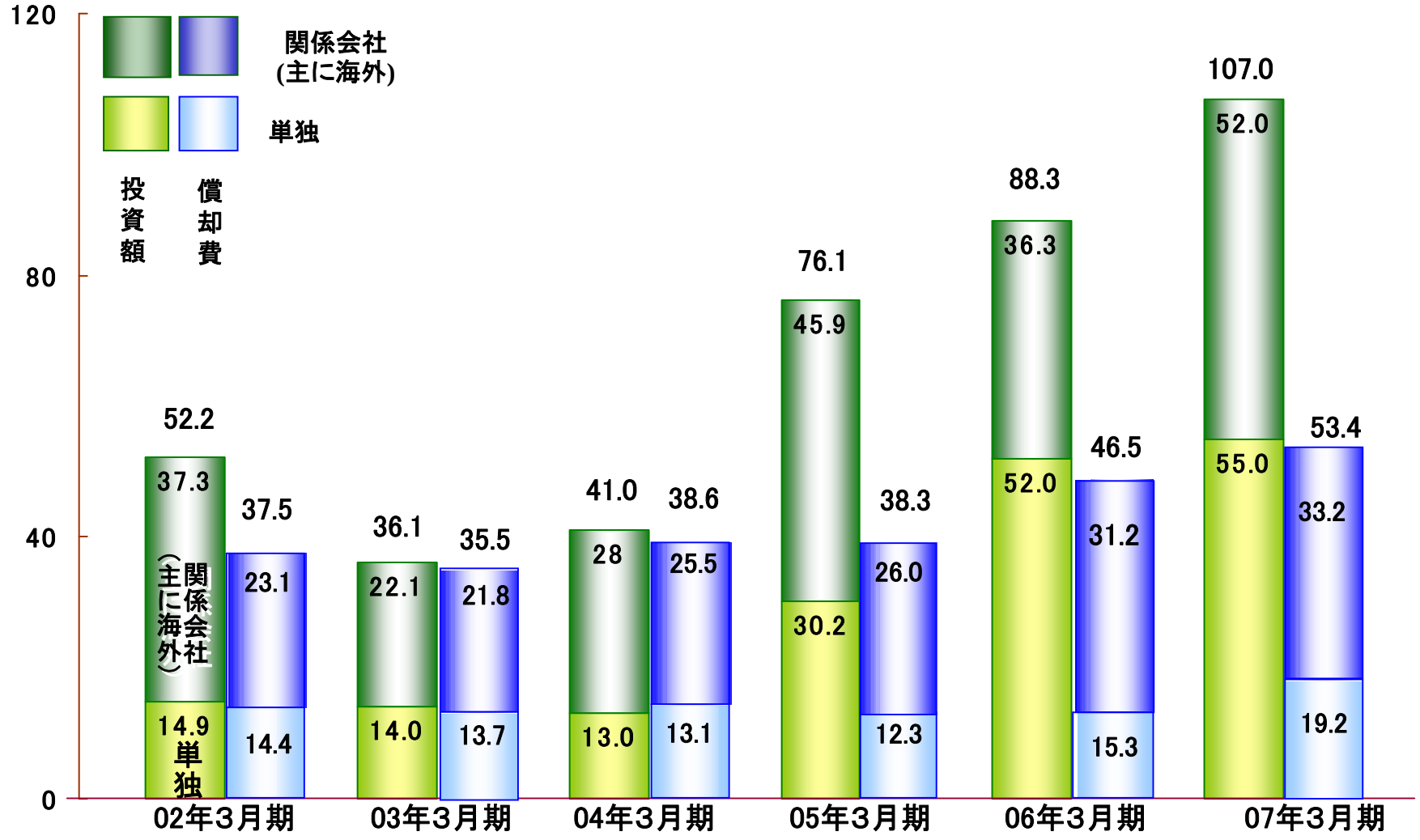
通期見通し　<連結> 売上及び利益の推移



経常利益は10年連続の増益

07年3月期見通し　〈連結〉設備投資額の推移

（単位：億円）



国内外共に前期を上まわる投資予定

事業展開の基本方針

ユタカの基本スタンス

お客様に満足して頂ける魅力ある商品を供給することに全力を尽くす

主幹部品と生産拠点の基本スタンス

需要のある場所で生産し、一貫加工（塑・加工・Assy）体制で安定供給する

商品群	部品名	生産と拠点の考え方
主幹部品 《3本柱》	●排気部品 キャタコンバータ、サイレンサー	ホンダ生産拠点の近在で生産
	●駆動部品 トルクコンバータ	ホンダのATミッション生産拠点と連動し4極で生産
	●制動部品 ブレーキディスク	生産ボリュームの大きいア大での生産を基本とし、日本はマザー機能が確保できる生産量確保
単体部品	●表面処理部品（塗装・メッキ関連）	ユタカの得意技で ホンダ拠点ごとのニーズに応える部品で、ホンダ拠点の近在で生産
	●プレス・溶接・機械加工に関する部品	
	●完成機（ENG ASSY）組立	

国内生産拠点の取組み

1．最適ロケーションで部品を集約

豊製作所	トルクコンバータ
高丘製作所	2R ディスクブレーキ
鈴鹿製作所	排気系部品（HM鈴鹿SS向け）
嵐山製作所	排気系部品（HM埼玉SS向け）

2．リスク対応と相互補完

排気系部品	鈴鹿製作所・嵐山製作所
トルクコンバータ	豊製作所・アメリカ・タイ・中国
2R ディスクブレーキ	高丘製作所・インドネシア

＋

マザーの

機能強化

◆コア技術

◆現場力強化

◆海外支援機能

嵐山製作所

概　要

住　　所：埼玉県比企郡嵐山町
　　花見台13番地

敷地面積：23,000㎡

建屋面積：14,000㎡

生産品目：エキゾースト・マニホールド
　　キャタリストコンバータ
　　サイレンサー

現　況



狙　い

・排気系部品の一貫生産体質の確立

・海外拠点への日本マザー機能充実

・フレシキブル生産体質ラインの構築

展開日程

2005年　7月 ： 地鎮祭

2005年12月 ： 建屋完成

2006年　2月 ： 稼動開始

鈴鹿製作所(新工場)

概　要

住　　所:三重県津市あのつ台
　　サイエンスシティ内

敷地面積:46,000㎡
建屋面積:20,600㎡
生産品目:エキゾースト・マニホールド
　　キャタリスト・コンバータ
　　サイレンサー

完成予想図



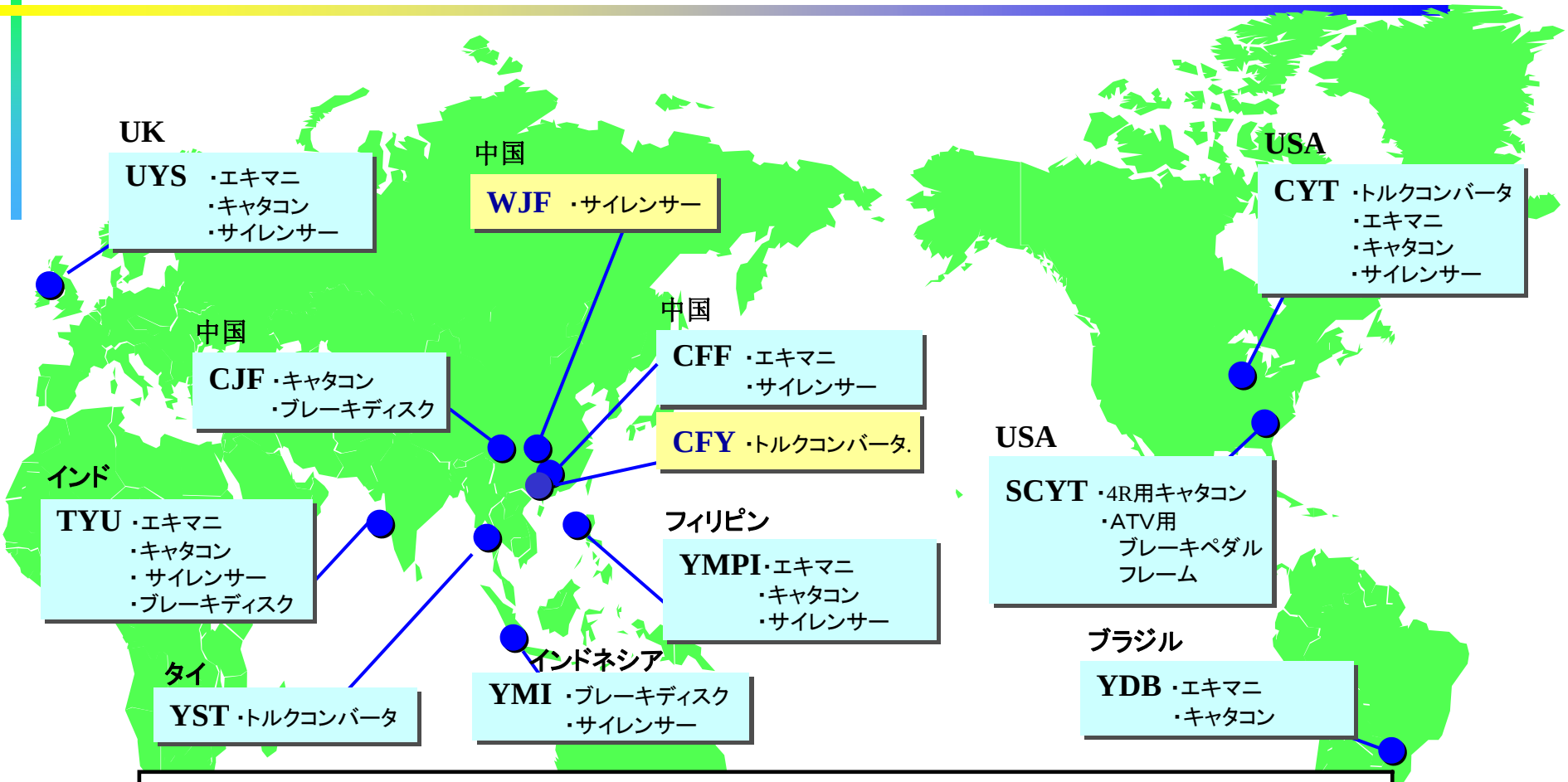
狙　い

・排気系部品の一貫生産体質の確立
・海外拠点への日本マザー機能充実
・フレシキブル生産体質ライン構築

展開日程

2006年 4月 : プレス発表
2006年 7月 : 地鎮祭予定
2007年 2月 : 建屋完成予定
2007年 4月 : 稼動開始予定

海外生産拠点の取組み



基本的な考え方

【新規拠点】

新機種展開と合わせて生産立上げ準備中

【既存拠点】

生産ラインの体質改革を進め、更なる体質強化

マザーからの支援を通じ自立化展開

開発の基本スタンス

商品競争力と新機種立上げ力の更なる向上を目指し、
開発の自立化・自前化を図る

◆商品開発は開発設備を増強し、商品の評価力UPと開発レベルを上げる

・テスト設備増強（耐久テストベンチ導入）

・体制強化

◆生産技術は生産設備開発でコスト競争力を上げる

・体革ラインの拡充

◆開発機能の集約化により開発スピードUPと効率化を図る

・栃木技術研究所と浜松技術研究所の１本化

新栃木技術研究所

概　要

住　　所：栃木県さくら市鷲宿
4480−17

敷地面積：19,000㎡
建屋面積：10,000㎡予定
事業内容：排気系・駆動系部品の
開発

完成予想図



狙　い

・商品開発のスピードUP、効率化
・顧客との連携強化
・開発設備増強に依る商品の
自前評価強化

展開日程

2006年　1月　　：土地購入
2006年　6月　　：建設着工予定
2006年10月末：竣工予定

まとめ（将来を目指して）

◆開発のスピードUPと生産技術の進化

◆国内拠点の更なる体質強化とマザー力強化

◆海外拠点の更なる体質強化

2006年3月期

決算説明会

2006年5月10日
株式会社ユタカ技研